

しんあい

季刊

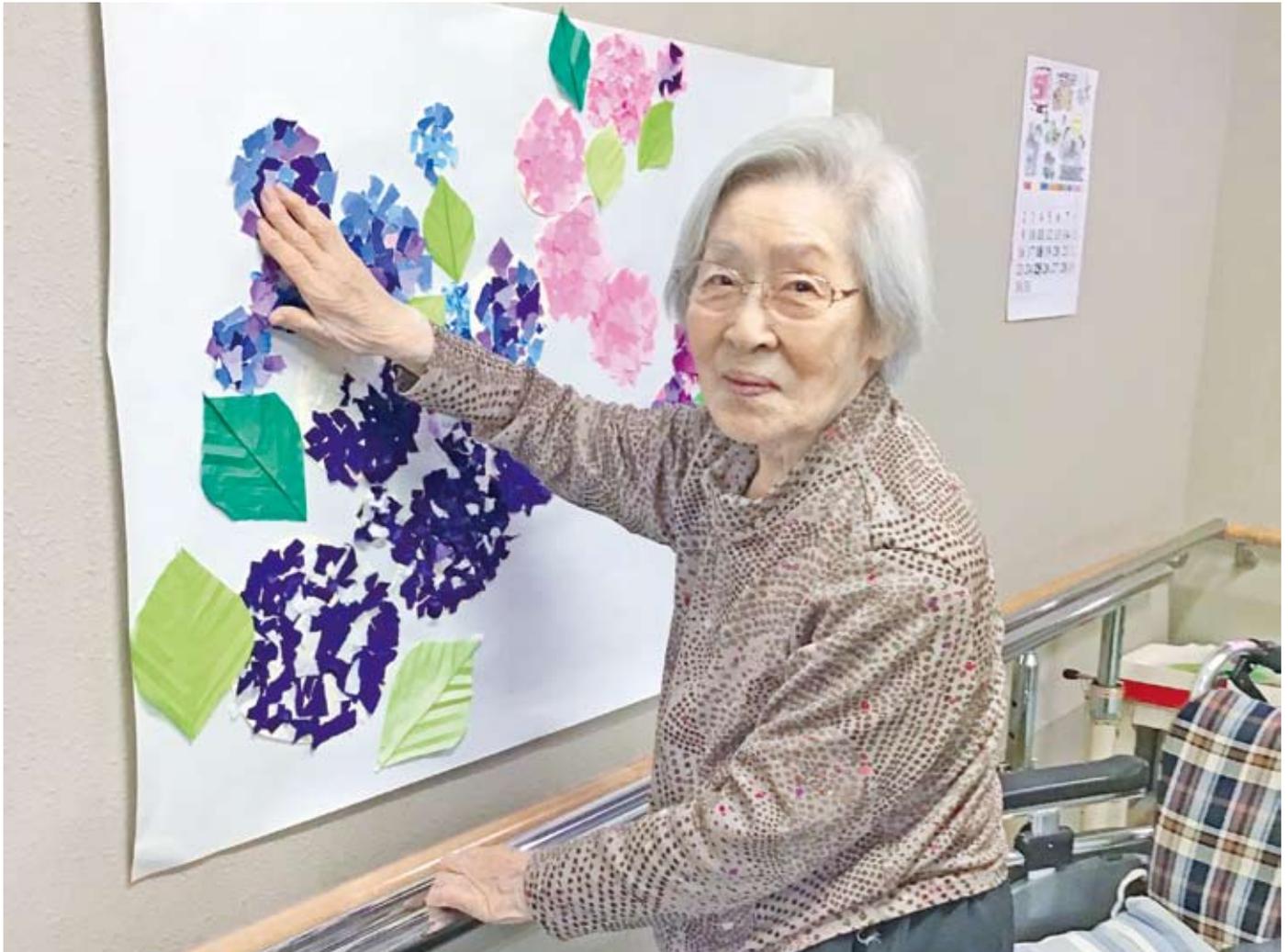
2021年(令和3年)12月20日発行 第120号 ◆編集と発行 しんあい編集部

社会福祉法人
多摩同胞会

〒183-0042 東京都府中市武蔵台1-10
TEL042-367-8801

多摩同胞会のホームページでは、
ブログを毎日更新しています。

<https://www.tama-dhk.or.jp/>
をぜひご覧ください！



秋のみどり展には、ご利用者や職員の力作が展示されました。(緑苑)

泉苑

- ・特別養護老人ホーム信愛泉苑
- ・高齢者在宅サービスセンター 泉苑ケアセンター
- ・府中市地域包括支援センター泉苑

緑苑

- ・養護老人ホーム信愛寮
- ・特別養護老人ホーム信愛緑苑
- ・府中市地域包括支援センター緑苑

あさひ苑

- ・府中市立特別養護老人ホームあさひ苑
- ・府中市立あさひ苑高齢者在宅サービスセンター
- ・府中市地域包括支援センターあさひ苑
- ・府中市高齢者住宅うらら多磨

神田事業所

- ・特別養護老人ホームかんだ連雀
- ・かんだ連雀高齢者
在宅サービスセンター
- ・高齢者あんしんセンター神田
- ・千代田区立岩本町ほほえみプラザ
- ・千代田区立かがやきプラザ
相談センター

児童福祉

- ・母子生活支援施設網代ホームきずな
- ・母子生活支援施設白鳥寮
- ・子ども家庭支援センターしらとり
- ・府中市子ども家庭支援センターたち

◆ 社会福祉法人を考える11

◆ 私の施設の自慢の職員
PART3

◆ 第6期次世代育成支援
行動計画

◆ 施設だより
「2021年をふりかえって」



社会福祉法人 を考える 11

～新型コロナウイルス感染症と 当法人内のうごき（その3）～



理事長 鈴木侑子

2021年11月11日現在 新型コロナウイルス新規感染者は全国213名、東京都31名と伝えられています。7月下旬から9月にかけて全国で数千～万人台の新規感染者数が報じられていましたが、その後減少し、10月には数百人台になりました。日常生活の制限が緩和され、自由な心が戻ったように思われますが、寒くなるにつれ再拡大が危惧されます。

今年度は突然の非日常化のなかで、一日も欠かせない日々の生活を支援する各施設の新型コロナウイルスとの闘いともいえる取り組みをお伝えしています。

今号（その3）、次号（その4）では高齢施設と母子・児童施設に分けて、各施設の職員の創意工夫を含め具体的な対応をまとめます。コロナ禍の日常として定着することも多いのではないかと思います。

各施設とも地域包括支援センターを中心に地域の拠点的作用を果たしていましたが、2020年2月以降ほとんどの交流が絶たれてしまいました。その間の地域の状況をあさひ苑からレポートしてもらいました。

	2020年1月～3月	2020年4月～2021年3月	2021年4月～2021年9月	
社会の動き 国・都の通知等	1月31日 厚生労働省「社会福祉施設等における新型コロナウイルスへの対応について」(2月13日更新) / 2月27日 全国小中学校一斉休校要請 (東京都: 3月2日～5月末)	4月7日 緊急事態宣言 (東京都 4月27日～5月25日)「新型コロナウイルス感染症対策の基本対処方針変更・事業継続の要請」 / 6月19日 厚生労働省「新型コロナウイルス感染症包括支援事業 (介護分)」実施	1月7日 緊急事態宣言 (東京都 1月8日～3月21日) 4月23日 緊急事態宣言 (東京都 4月25日～9月30日) 7月23日～8月8日 東京オリンピック開催 8月24日～9月5日 東京パラリンピック開催	<p>当法人の新型コロナウイルス感染症の具体的な対応は、2020年1月31日、2月13日の厚生労働省の通知から始まりました。2月28日に法人全体の感染症対策本部を設置し、以後全施設長を構成員とした対策会議を月2回定例開催しました。前々号 (118号) でまとめた通りです。定期的に課題を共有してきたことで、感染予防のための消耗品の調達や備品の貸与などの施設間の連携や、前号 (119号) で紹介した泉苑にて利用者職員の複数感染が発生した際の応援体制なども全施設の協力のもと敏速にすすめることができました。</p> <p>法人の対策会議と同時に、施設ごとの対策会議を定例開催し、諸々に対応策を検討、実施しました。その内容の一部を今号でまとめました。</p> <p>大きな災害ともいえる感染症の拡大、眼にみえないウイルスからご利用者をまもる緊張感のなかでの外出や行事、グループ活動の停止、ボランティア活動や地域交流の中止のなかで建物 (フロア) 限定でご利用者と職員のみで過ごす時間。このなかでも少しでも彩りのある生活を模索しました。ご家族と直接に会う機会も絶たれましたが、2020年5月以降はリモート面会やアクリル板越しの面会等、限られた時間内でしたが実現できました。</p> <p>地域包括支援センターを中心とした地域の支援活動も不自由になりました。地域のネットワークが分断され、地域の実情に手が届かない思い、高齢者にとって欠かせない予防活動の重要性を実感する日々でした。</p> <p>あらためて「災害」のない日常に感謝しつつ、これからは「災害」のある日常を創っていかねばならないと強く思う日々です。</p>
ご家族の面会	ご家族への面会自粛のお願い。 看取り対応のご利用者家族のみ感染対策のうえ居室面会 (全施設・継続中)。	5月～ リモート (ZOOM) 面会開始 (全施設・継続中)。 緊急事態宣言解除期間はアクリル板越し等感染防止策のうえ対面面会毎月のおたよりで近況報告・写真の同封・変化について早めのご連絡に	再開 (全施設・継続中)。 努める・入院に対し慎重になる (緑苑)	
在宅サービス センター	短期入所…新規ご利用者控える 通所介護…利用時の全員検温、マスク着用、手指消毒の実施 (継続中)。 活動プログラムの見直し (継続中)	利用自粛の方が増える。 / 短期入所…年度後半で新規利用の受入再開。 / 1月 在宅ご利用者の感染者発生 (各1名) により一時事業休止する (あさひ苑・岩本) / 休止期間中は家庭訪問・安否確認・食事配達 (あさひ苑)	ワクチン接種がすすみ、新規利用者を含め、利用者増加。 ワクチン接種副反応による欠席者増えるもご家族の不安は軽減された。 / 活動プログラムの工夫 (対面→教室形式、カラオケ、ゲーム→手指運動、脳トレ等)	
ボランティア活動・ 実習生他	ボランティアの活動休止。運営協議会・ボランティア懇談会・家族懇談会の中止。緊急事態宣言中は実習生の受入中止。(全施設・継続中) 外部サークル講師等休止 (全施設・継続中) 業納品は玄関にて受け渡し (全施設・継続中)	全ての外来者に健康チェックシートと連絡先の記入を依頼開始 (全施設・継続中)		
【ホーム】 活動の変更	訪問理美容中止 パン等の出張販売休止 (継続中)	夏祭り・敬老のお祝い・新年祝賀会等 小グループ・フロア単位で工夫を 理美容サロン再開 (あさひ苑) 衣料品出張販売をリモートで実施 (あさひ苑) 千代田区新規入所者の PCR 検査実施 (連雀・岩本、継続中)	こらして開催 (全施設・継続中) 各フロアのベランダ整備 (ベランダでの活動プログラム)	
【地域】 活動の変更	昼食会 (各施設)・グリーン茶房 (緑苑)・ホーム喫茶 (あさひ苑) 等中止 (継続中) 安心シニア塾中止 (緑苑・あさひ苑・泉苑) (継続中) 介護予防事業・認知症サロン活動等休止 (全施設)	8月～ すみれ会買い物ワゴン開始 (かんだ連雀) (継続中)	6月～ 府中市介護予防事業縮小しつつ再開 (泉苑・緑苑・あさひ苑) 9月～ 千代田区介護予防事業一部再開 (岩本)	
職員研修等	2月～ 全職員出勤時検温 (勤務表チェック)・手指消毒徹底・マスク着用・ソーシャルディスタンス・各種会議、研修等リモート開催 (全て全施設) 1月末～ 法人本部及び各施設にて新型コロナウイルス感染症対策会議設置 (法人: 2020年5月～2月2回定例化 10月～1月1回) (継続中) 2月～ 換気・三密回避の徹底等 対策本部会議速報掲示	8月～ 千代田区 PCR 検査開始 (連雀・岩本町) 感染者発生想定訓練・防護服着用訓練 (各施設)	設にて継続中) 各施設PCR検査定例化 (千代田区・東京都補助事業・日本財団事業) 6月～ 新型コロナウイルスワクチン接種開始 5/15～6/14 泉苑 PCR 検査にて陽性者発生確認 (全施設より応援体制)	
環境整備	建物内・送迎車輛等の消毒徹底・定時換気 (よびかけ) (継続中)	食堂・受付・デスク等 パーテーション設置 (全施設)、正面玄関・職員入設 (泉苑・あさひ苑) (全て継続中) 2月 簡易陰圧装置設置 (泉苑・緑苑・連雀…都補助事業 / あさひ苑…府中市 / 岩本…千代田区)	口等 非接触型体温計等設置 (高齢施設)、正面玄関 手洗い器新	
地域の状況 (あさひ苑地域包括 支援センターから)	コロナ禍により地域で発生したことをご報告します。 【1】不幸な熱中症死亡 マンションに住む独居女性の方でした。認知症があり、日中は近くのハンバーグショップなどで過ごしていました。近隣に住む精神疾患のある娘さんが定期的な見守りをしていましたが、8月のお盆の時期に「この期間は、遠方に住むご家族に会いに行く行動を控えてください」というテレビの放送を聞いて「この期間は親に会いに行つてはいけません。」と受け取り、訪問を数日控えたところ、約1週間後に室内で亡くなられていたところを発見されました。 【2】自営業不振、アルコール依存症により別居 70代夫と60代妻の二人暮らし。飲食店を営んでいましたが、客足が徐々に減るのいて開店休業のような状態になりました。夫が朝から毎日飲酒し、妻への暴言暴力が止まなくなり、妻は虐待対応での自立支援ショートステイ (信愛寮) の利用にて避難し、その後アパートに別居することになりました。 【3】過剰反応により自宅軟禁 70代の母と40代の引きこもり傾向の息子の二人暮らし。息子が新型コロナウイルス感染症に罹患することに過度の恐怖心を持ち、母親が買い物に出かけるときも、一挙一投足全てに干渉するような状態になりました。生活必需品の買い物以外の外出を全て禁止、母親に対する暴力や自殺企図の問題を起しました。遠方に住む親族に母親が助けを求め、警察介入し、息子の入院を調整しましたが、通院先の病院から入院不要の診断が下り、自宅に戻りました。警察・行政・地域包括支援センターが連携しながら見守りを継続しています。	【自治会の話】 あさひ苑のエリアには自治会が立ち上げたサロン活動が大小合わせて4か所あり、新型コロナ感染症蔓延前は月に1、2回文化センターや地域が維持管理している自治会館などで、茶飲み話やイベントでにぎわっていました。2020年の最初の緊急事態発令後このサロンもやむを得ず活動中止休止状態に陥りました。2020年夏緊急事態が明けてすぐに活動を再開したサロンに地域包括支援センター職員がお邪魔させていただいたときに、自治会長から「たった半年の間に、自治会所属の高齢者が複数孤独死していた。」という話をお聞きしました。亡くなった方の死因は病死であろうということでしたが、話してくださった自治会長の表情も苦渋にあふれ、話を聞いた職員も絶句してしまいました。その後、その自治会のサロンは感染対策に取り組んで、現在まで月1回の活動を継続しています。活動の中身も「スマホ活用術」「LINEの使い方」など、コロナ禍に即したものに積極的に取り組んでいます。 【老人会の話】 緊急事態宣言を受けて、文化センターやその他の公共施設が使用禁止になりました。体育館やグラウンドでの活動が行えないことで、会を運営している主催者の方々の苦勞は言葉には表せられないほどでした。しかしながら、その渦中でも会員全員に定期的な電話連絡をしたり、不織布のマスクが巷から消えた時に、あさひ苑名入りの手拭いと手拭いを使った布マスクの作り方の紙を各会員宅に配布してくださった肝の据わった会長さんがいらっしやいました。地域包括支援センター職員が地域を回ると幾人もの顔なじみの高齢者があさひ苑の納涼祭の手拭いと一目でわかるマスクをして微笑んでくださったことは印象的で今でも忘れられません。 【民生委員のみなさん】 やはり、新型コロナ感染症蔓延の影響が一番受けたのは地域の見守りの核であった民生委員さんではないでしょうか？ 5月頃から例年実施していた熱中症予防対策での各戸訪問ができなくなったこと。各委員さんが工夫して犬の散歩時や空調の室外機に着目し行っていた見守りなどがほとんどできなくなってしまいました。定期的に、町ごとに開催していた地域ケア会議 (高齢者地域支援連絡会) が開催できず、各委員さん同士の情報交換もできなくなりました。		
	(報告者: 地域支援統括責任者)	清野哲男 (あさひ苑)		

(編集: 事務局 青木志乃)

わたしの施設の自慢の職員 PART 3

しらとりの自慢の職員

萬 友希子さん
(母子支援員/社会福祉士・保育士)

テキパキと仕事をしながら、周りへの気配りも欠かしません。萬さんの出勤日は安心感があり、とても頼れるリーダーです。現在は母子支援員として働いていますが、どこでも活躍できるオールラウンダーで、笑顔は太陽のようにキラキラしています。お母さん方からの相談にも的確なアドバイスで対応し、利用者さんだけでなく職員からもとても信頼が高いです。

(母子支援員 吉川 泰葉)

萬さんよりひと言

母子支援員となり数年が経ちますが、いつも正解がない支援について悩む日々です。退所した利用者が笑顔で会いに来てくれたり、お手紙が届いたり、元気をもらえることができると、とてもうれしくなります。お母さん・子ども達をはじめ、部署メンバーやたくさんの職員に支えられながら仕事ができているなあと感じています。



岩本町ほほえみプラザの自慢の職員

川邊 飛馬さん
(ケアハウス相談員/介護福祉士)

4月からケアハウスに配属となった主任の川邊飛馬さん。今までとは違う業務内容に日々奮闘中です。にっこり微笑む笑顔が印象的な川邊さんは、入居者の皆様への声掛けも優しく、川邊さんが対応しているとゆっくりとした穏やかな時間が流れています。どの業務においてもひとつひとつの作業がとても丁寧です。先日行った敬老会では細部までこだわって準備を進めてくれており大盛況でした。相談員として、主任として入居者の方々が安心して生活することができるケアハウスを目指して、今後ますますの成長を期待しています！

(ケアハウス施設長 藤井 貴子)

川邊さんよりひと言

今年度4月からケアハウスいわもとの相談員をしています。今まで特養やデイサービスなどの部署を経験してきましたが、法人でも岩本町ほほえみプラザにしかない軽費老人ホームで働くことは、難しくもあり新鮮でもあり、勉強する毎日です。

入居者の方々に顔と名前を覚えてもらえるよう、4月以降、お一人お一人との関係を築いていく事を大切にしてきました。最近では入居者の方から「あなたに相談したいことがあるの」とお声をかけていただく事も増え、信頼される存在に近づけているように感じています。

これからも入居者の方が声をかけやすい環境をつくり、安心して暮らせるよう、努めていきたいと思ひます。



たっちの自慢の職員

中村 綾花さん
(交流ひろば・地域支援ワーカー)

いつもニコニコ優しい笑顔の中村さん。交流ひろばに遊びに来てくれる親子さんたちを、いつでも優しい笑顔で迎えてくれています。ドキドキしながら初めて遊びに来た親子さんや、ちょっと人見知りや緊張してしまうお子さんも、ホッと安心できるような笑顔だと思ひます。

実は、中村さんは今年の4月から交流ひろばの仲間になりました。新しい環境で、覚えることやチャレンジすることもたくさんあったと思ひますが、たっち歴半年にしてたっちの自慢の職員です！！

(交流ひろば担当 山田 恵未)

中村さんよりひと言

交流ひろばには、0歳～就学前のお子さんまで、たくさんの親子さんが遊びに来てくれます。ひろばにいる時間を、親子で楽しく過ごせるお手伝いが出来ればと思ひています。以前は母子生活支援施設で小学生と接していたので、年齢や接し方の違いに戸惑うこともありますが、ひろばでの親子の愛情いっぱいやり取りや、お子さんの素敵な笑顔からいつもパワーをいただいています。

これからもひろばが楽しく明るい雰囲気になるよう、努めていきたいと思ひます。



きずなの自慢の職員

飯田 紫織さん
(心理療法担当/臨床心理士・公認心理師)

ご利用者との心理面接だけでなく、職員とも積極的にコミュニケーションをとり、支援がより良い方向に変化するよういつも考えて発信しています。支援に悩んだ時に相談すると具体的にアドバイスをくれるので、ご利用者だけでなく職員にとっても心強い存在です。

(母子支援員 高橋風子)

飯田さんよりひと言

心理室に入室される母子を受け止められる役割を担えたらと思ひますが、生活に影響がでないように世帯の状況によっては気持ちを汲み取りすぎないように心がけています。学童や保育、母子支援員が協力して母子に関わる中で、母子の様子が良い方向へと変化していくことを感じられる瞬間が「動けて良かった」と思える時間です。言葉にはできないくらい体験があったことを受け止め、表現してくれた母子の力を肯定しながら、限られた期間で何が出来るかを考えていきたいと思ひます。



泉苑の自慢の職員

小林詠子さん
(食事係/栄養士)

いつも明るく気さくな人柄で、お母さんのように優しく接してくれます。実は3児の母でもあり、子育て真っ最中のお母さんでもあるのです。どんな料理も「ホッ」とする味付けで、家庭で食べているような食事を作ります。また、新しい料理に挑戦する時は、自宅で作った料理上手な旦那様や子供達に相談し試作(予習)をする仕事熱心で、料理上手な小林さん！！

(栄養士 高橋慶子)

小林さんよりひと言

私が多摩同協会と出会ったのは、まだ若かりし20歳ごろの事でした。

その後すぐに結婚出産のため退職しましたが、2年後に高齢者住宅の管理人の話をいただき、十数年ほど管理人として住まわせていただきました。

そして、6年前に泉苑食事係に復帰。すーっと泉苑にはお世話になっております。こんなに長く勤めていられるのは泉苑の方たちの人柄の良さのおかげです。



かんだ連雀の自慢の職員

福本美希さん
(定期巡回随時対応型訪問介護担当/介護福祉士)

定期巡回では最年少ながら、サービス提供責任者の職務を日々奮闘しています。利用者からの支持も篤いですが、サービス提供責任者3名の中の紅一点として現場職員からも信頼される頼りになる存在です。援助のスケジュール・シフト調整や援助の具体的な悩みまで、気軽に話せる人柄で職場を明るくしてくれます。今年度は社会福祉HERO'Sに参加し、全国から選ばれた上位7名に入り、自他共に認める「かんだ連雀」の看板娘に成長しました！

(計画作成責任者 尾崎正紀)

福本さんよりひと言

訪問介護、定期巡回のヘルパーとして日々ご利用者のお宅へ訪問したり、施設のボランティアコーディネーターとして地域公益活動の調整をしたり、施設の外に出て働くことが多いです。そのため「かんだ連雀」の看板を背負っていることを、常に意識しています。自分の立ち振る舞い一つで「かんだ連雀」の印象が変わるので、いつも笑顔で、相手に寄り添うことを心掛けて働いています。30過ぎて看板娘と呼んでいただけるのは、嬉しいですね(笑)



あさひの自慢の職員

金子 淳さん
(通所介護リーダー/介護福祉士・介護支援専門員)

通所介護で毎日行うレクリエーションにおいて、金子さんはいつも盛り上げ隊長になっています。学生の頃から海外留学するほどサッカーに打ち込んできた為か、誰よりも負けず嫌いです。そして誰よりも活動を楽しもうとする姿勢がご利用者を引き付け、気が付けば皆さんと一体となって笑顔の活動が広がっています。

そんな熱い気持ちでチームもまとめる頼もしいリーダーです。
(通所介護主任 櫻井 拓磨)

金子さんよりひと言

あさひ苑に就職し15年が経ちました。それ以前に20年続けたサッカーの経験を生かして、「楽しいからいつの間にかこんなに動いていた！」と、ご利用者に感じていただくことを目標に日々活動を行っています。バレーボールやピンポン、パターゴルフ等、私も持ち前の運動神経を生かして、ご利用者と一緒になって参加しています。楽しみながら真剣に！真剣だけど笑いあり！皆さんが身体も気持ちも元気でいてくださるよう努めています。



緑苑の自慢の職員

浅見達也さん
(特養係長・生活相談員/介護福祉士)

浅見さんはいつも明るく元気。何かあればすぐに駆けつけてくれます。職場の雰囲気も明るくご利用者の笑顔も多くなります。仕事で困ったことなどあれば何でも親身になって考えてくれ、気軽に何でも相談できる兄貴分です。私も見習っていつも明るく元気に仕事に取り組むよう努めています。
(緑苑介護員 村上悟)

浅見さんよりひと言

ご利用者、ご家族との最初の関係性を築くのが生活相談員です。生活相談員は、関係機関との調整、多職種との情報共有と連携し、さまざまな社会資源を活用し、安全で安心のできる環境を提供しながら、その人らしい生活が送れるよう、日々業務に就いています。また、職員の資質の向上のためにも、様々な情報交換とアドバイス等を行い、風通しの良い職場作りを心掛けています。



施設 だより



2021年を

ふりかえって



感染症対策によるさまざまな制限がある中で、法人が一丸となって乗り越えた2021年でした。各施設の取り組みをお伝えします。

しらとり 子どもと一緒に成長

私は4月に入職しました。この9カ月は、新しい環境に慣れ、目の前にいる子どもたちと関わることで精一杯の日々でした。そのような毎日を通じて、子どもたちの新たな発見に立ち会うことができた時に、私自身も気づきを得ることができました。

私にとっては何気ない風景の中で、子どもたちは色々な発見をしています。例えば、風で落ち葉が舞っている様子に「わー」と驚いて興味を持ち、手で葉をクルクルと回してみたり、飛ばしてみたり。私が普通だと思っていたことも、子どもたちにとっては全てが新たな発見なのだ改めて気づきました。また、子どもたちは発見を通して「どうしてこうなるんだろう?」「不思議に感じたり、「これは何だろう?」と興味を持ちたりしています。その疑問や興味には、私自身がこれまで感じたことや考えたことがなかったこと、知らなかったことも含まれており、私の新たな発見に繋がることもありました。

この気づきを活かして、今後何気ない風景に目を向け、子どもたちと一緒に発見することを楽しくむとともに、子どもが興味を持ったことに気づき、その興味を広げていけるようにしたいと思います。

保育担当(保育士・社会福祉士) 阿部 泉妃



仕事もプライベートも充実した生活を目指して

一般事業主行動計画とは、次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づき、企業が従業員の仕事と子育ての両立を図るための雇用環境の整備や、子育てをしていない従業員も含めた多様な労働条件の整備などに取り組むに当たって、(1)計画期間、(2)目標、(3)目標達成のための対策及びその実施時期を定めるものです。従業員101人以上の企業には、行動計画の策定・届出、公表・周知が義務付けられています。

多摩同胞会の行動計画5期の結果報告と6期の行動計画をお知らせいたします。

次世代育成支援、女性活躍推進行動計画(第5期)の結果報告

- 1. 計画期間 2018年(平成30年)10月1日～2021年(令和3年)9月30日
- 2. 目標とその結果

- 1) 計画期間内に、配偶者が出産した男性職員の7%以上が育児休業を取得する
⇒配偶者が出産した男性職員9名のうち育児休業を取得した職員は3名で、育児休業取得率は33%でした。
- 2) 多様な勤務形態の導入、ワークライフバランスを支援する就業規則の見直し
⇒年休の時間単位付与、育児時短制度の対象となる子の年齢制限の廃止、75歳までの就労を可能として、働きやすさ休みやすさを実践しました。2021年4月には有期雇用職員への慶弔休暇・療養休暇付与、産前休暇を8週に延長し、コロナ禍に備えテレワーク就業細則を施行しました。
- 3) ひとり親家庭等の就職困難者の雇用に積極的に取り組み年間5名以上を採用する。
⇒労働条件に制約があり就職が困難な場合も、多様な勤務形態や従事する業務を工夫して活躍の場を提供しました。計画期間にひとり親10名、障害のある方9名、65歳以上の方21名、計40名を雇用しました。
- 4) 地域に向けて「福祉、介護の職場の理解」の発信
⇒法人セミナー(コロナ禍においてはオンライン)を実施し、就職希望者や地域の方の社会福祉事業の理解の発信に努め、計画期間内に38回開催、102名が参加しました。
※計画期間内にすべての目標を達成しました!



社会福祉法人多摩同胞会 次世代育成支援一般事業主行動計画・女性活躍推進行動計画(第6期)

多摩同胞会では、法人創設時から採用、育成等について男女の区別はありません。一般事業主行動計画及び女性活躍推進行動計画は、働きやすい職場環境のもとで職員の皆さんが仕事と子育てや介護を両立し、個々の能力を十分に発揮できることを目的に策定しました。計画達成に向けて、具体的な取り組みを提案し実現して行きます。

- 1. 計画期間 2021年(令和3年)10月1日～2026年(令和8年)9月30日
- 2. 目標と具体的な対策

- 1) 計画期間内に、配偶者が出産した男性職員の50%以上が育児休業を取得する
対策 ・育児・介護休業規程をふくむ就業規則の説明、相談体制を強化する
・ガールーン、法人サイト等様々な媒体を活用し職員へ制度内容を周知する
・休職する職員の代替職員や派遣職員を雇用して業務負担の軽減を図る。
- 2) 計画期間内の正職員の離職率を毎年度7%以下とする
対策 ・職務要件を活用した強みを伸ばし弱みを克服する人材育成を行う。
・定期的な人事交流、適正な人事評価によりやる気を醸成する。
・メンタルヘルス対策による健康管理を行う。
・超過勤務時間削減、休暇がとりやすい仕組みづくりなどに取り組む。
- 3) 計画期間内に女性の平均勤続年数を男性職員に近づける
対策 ・男性平均勤続年数14.19年、女性平均勤続年数9.98年の差を縮めるために、目標1)、目標2)の対策を徹底する。
- 4) ひとり親家庭等の就職困難者を積極的に雇用する
対策 ・労働条件に制約があり就職が困難な場合においても、多様な勤務形態や業務内容を活用し、ひとり親や地の就職困難者等を雇用する
- 5) 地域に向けて「福祉、介護の職場の理解」を発信する
対策 ・家族参観日を開催する。
・1日・半日インターンシップ等の就業体験を実施する。
・小中高校生等の福祉施設ボランティア体験(社会福祉協議会との協働)を実施する。
・法人サイト、SNSや広報紙で多摩同胞会の取り組みを発信する。



あさひ苑 マスクの下の真実

2021年を振り返ってみると、予想以上に長く続くコロナ禍でマスクの着用が日常となってしまいました。この1年間、マスクなしで会ったのは家族だけでした。
聴覚障害のある方がマスクのために口の動きが見えず、コミュニケーションに困っているという話を聞きますが、高齢の方々も聴力や視力が弱くなっています。マスク越しでの対応は声も聞き取りにくく、表情も見えないため、さらに理解しにくいでしょう。

普段から私たちはご利用者の皆様と接するときには、視線を合わせることで、私は今あなたとお話していますと伝えること、大きな声でゆっくりと話すことを心がけていますが、何よりも今一番大切にしていることは、マスクをしていても笑顔で接することです。目には気持ちが表れるともいわれますが、目しか見えない状況ではより顕著に表れるように感じます。マスクの下での満面の笑みが、気持ちを伝えてくれると思います。

まだまだマスク着用は続きそうです。私は昨年入職した為、常にマスク姿で誰も私の素顔を知りません。マスク無しで会える日が来た時に、「あなたは誰?」と言われないように、お肌の手入れと顔の筋肉のストレッチに励んで、最高の笑顔でお話できるようにしたいと思います。

ホーム看護(看護師) 松本 恵子



たち

再開・再会で みんな笑顔

2021年のたちは、新型コロナウイルス感染症防止対策をとりながらも、地域の親子の皆さんに、更なる楽しみや喜びを感じてもらえるように、事業や行事の在り方や再開のかたちを探ってきた1年でした。

ひろばでは、季節の行事ごとに制作コーナーを設けたり、誕生月のお子さんに手形や足形をとった誕生日カードをプレゼントしたり、親子でゆったり過ごせる「絵本の部屋」を再開したりしました。

子育て講座や交流会は、「子育ての仲間を作りたい！」という切実な声を受けて、回数や内容を工夫しながら、コロナ禍でも親子が出会える貴重な機会になるように努めました。

ささやかな再開や再会かもしれませんが、親子の皆さんの笑顔が少しずつ増えていくことで、職員もまた笑顔になって、次にできることを探っていく力をもらえる、そんな1年でした。

相談員
(公認心理師)
豊富 恵



泉苑

コロナ感染 そして終息

今年の大きな出来事は泉苑で新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生した事です。感染防止対策をしていたにもかかわらず、5月中旬から6月初旬にかけて3階フロアを中心に利用者10名、職員7名が感染しました。

「次は自分が感染するかも」という不安を抱えながら、感染拡大を防ぐため保健所等の指導を職員全員で確認し合い、業務にあたりました。それでも出勤するたびに陽性者数の増加を聞き、感染の恐ろしさを痛感しました。在宅サービスも事業を停止し、ホーム以外の職員も消毒や備品の管理を協力して行いました。

発生1週間後には法人の他施設から応援職員が派遣されました。感染により日に日に泉苑職員が減って不安だった業務を他施設職員が補いました。各施設の職員があたかも家族のように一つになって、まさに多摩同胞会の理念「私達は家族を支援します」を実感し、とても心強く安心して業務に集中し感染を終息する事が出来ました。

ご利用者の皆様に
安心した生活を送って
いただけるよう、
これからも感染防止
に努めていきたい
と思います。

2階ホーム介護職員
(介護福祉士)
横地 千陽



連雀

つながるって いいね!

今年はコロナ禍により、他の多くの施設と同様にかんだ連雀でも止む無く施設への入館やご入居者との面会を制限させていただく状況が続いてきました。感染防止に気を配りながらも、アクリル板越しでの面会や、Zoomアプリを介した面会など、その時の状況に応じてできる限りの対応を行ってきました。その中で強く感じたのは、ご家族をはじめ、大事な人と繋がる時間の大切さでした。久しぶりに顔を合わせた時の安堵感溢れる表情や、穏やかな空気の中で時間を共有されている姿を目の当たりにし、これまで当たり前のように行ってきた面会の時間がどれだけ貴重なものだったか、改めて考えさせられる1年間でした。これからも、ひとつひとつの繋がりを丁寧に紡いでいきたいと思っています。

ホーム生活相談員(社会福祉士) 久米 洋平



きずな

寄り添いながら 成長しました

保育業務との兼務だった母子支援員業務は、今年度からは兼務がなくなり母子支援員のみになりました。

まだまだ未熟であり足手まといにならないよう日々勉強中です。保育士として関わっていた際には見えてこなかったお母さんたちの感情や、支援のあり方を目の当たりにし、保育とはまた違ったやりがいや、支援の奥深さを感じています。

この1年を振り返り、たくさんお母さんたちと会話し、一緒に涙したことや喜んだことを思い出しました。当初は自分には務まらないと思っていたことも、仲間や利用者を支えられ、ここまでやってくる事ができました。

少し成長できた自分を感じながら、また頑張ろうと思う今日この頃です。

(保育士)
長谷川 美沙



緑苑

いつまでも 元気で 生き生きと

2021年は、府中市の新しい介護予防事業、フレイル予防講習会が本格的に始まった年でした。フレイルとは、加齢に伴い心身の活力が低下した状態で、栄養・口腔・運動・社会参加についての講義や体操を通して、いつまでも元気で生き生きと生活する事を目指しています。

対象年齢は70歳代で、他の事業のご利用者比べるとお元気で「まだお世話になるのは早い」と気が進まない方が多くいらっしゃいました。また、コロナ禍でマスクを着けての参加に抵抗がある方も多く、外出の機会が減る事によりフレイルが進む状況にありました。

そのような気乗りしない方や休みがちな方へ参加を呼びかけ、何とか3ヶ月間参加した後に「意識が変わった」「食へ物や歩く事に気を使う様になった」との感想をいただいた時は嬉しく感じました。

この事業がより良いものになる事を目指し、これからも頑張っていこうと思います。

介護予防コーディネーター

(介護福祉士) 傳刀 耕祐



岩本町

令和3年の ほほえみ

岩本町ほほえみプラザの4階にあるグループホームには、お日様の光がしっかり入る南向きのベランダがあります。洗濯物を干したり、日向ぼっこをしたり日々の生活の中で大活躍の場所ですが、今年は野菜を育ててみました。夏の暑い日も風の強い日も皆さんの愛情を沢山受けてトマトやナスがすくすくと育ちました。

お楽しみは収穫した食材で何を作るかです。テレビを観ている、ある「マーシャルから「これだ!」とひらめき全員一致でピザを作る事にしました。力を合わせて具材を刻み、チーズを乗せてその出来栄は…

皆さん「美味しいね」と大笑顔。お日様のよう
な明るい「ほほえみ」に溢れました。

グループホーム担当(介護福祉士) 浦川 裕司



ニュースミニ I

きずなへの嬉しい贈り物



一般社団法人「cornerstone[SHIZUE]」の皆さまから、ハロウィン用のお菓子やおまごとの用のキッチン、絵本等を寄贈していただきました。これまでもバスケットボールや食材、日用品等様々な品を寄贈していただき、大変感謝しています。今回は手作りのハロウィンの飾りやお菓子の包装もあり、物だけではない子どもたちを想う気持ちを感じて心が温かくなりました。ハロウィンの装飾は、子どもたちと一緒に施設内を飾りつけて楽しめました。頂いたものは、今後も大切に使い続けていきたいと思っています。

(母子支援員 高橋風子)

ニュースミニ II

秋のほほえみ展 オンライン



岩本町ほほえみプラザでは、ご利用者の作品を展示する「秋のほほえみ展」を開催しました。以前は1階廊下のスペースを利用して展示していましたが、昨年コロナ禍によりオンラインも同時開催しています。今年もご利用者から数々の作品を出展していただきました。

(松本幸二郎)

秋のみどり展 エコアート

緑苑でも「秋のみどり展」を開催しました。ペットボトルを再利用したおもちゃやカレンダー、ご利用者の力作をたくさん展示しました。コロナが収束した際は、是非緑苑にも足を運びください。



御寄贈・御寄付ありがとうございます

(掲載を可とされた方のみのお名前です。敬称を省略させていただきます)

(株)Angel R 王将フードサービス 株式会社陶和 川島加奈子
 一般社団法人CornerstoneI・SHI・ZU・E 国際ソブチミストあきる野
 毎味水産株式会社 株式会社包む 社会福祉法人テレビ朝日福
 祉文化事業団 永井よし子 一般社団法人日本海老協会 有限会
 社庭商店 根上真 林悦二 NPO法人森のライフスタイル研究所
 UBSアセットマネジメント(株) 吉田ヒサ子 ロクシタンジャパン
 株式会社

(2021年9月～2021年11月)

ボランティアの御協力ありがとうございます

(敬称を省略させていただきます)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため2020年2月よりボランティア活動のほとんどを中止いただいています。その中でご協力いただきました。

川上詩乃 高倉祥子 村井福子

(2021年9月～2021年11月)

介護に関するご相談は無料ダイヤルで!

●泉苑 老後支援 24時間
 ☎0120-6540-24

●あさひ苑 福祉にっこり 24時間
 ☎0120-2942-24



法人ウェブサイトはこちら

Facebook 更新中

採用情報サイトはこちら



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



編集後記

食べ残しをしないよう食品ロスを減らし、今後も継続していきます。

(緑苑 鈴木律子)

今年は待ジャパンと女子ハインドボールの金メダルが嬉しかったです。

(緑苑 村上悟)

仕事を振り返り、仕事と育児の楽しさと大変さを実感した1年でした。

(たっち 恩智温子)

今年には待ジャパンと女子ハインドボールの金メダルが嬉しかったです。

(岩本 松本幸二郎)

散歩をする機会が増え、地元の開拓を楽しんだ1年になりました。(しらとり 菅沼由香)

新しくフロアのリーダーに任せられ、忙しい中にも成長できた1年ではないかと思えます。(かんだ連雀 伊藤裕太)

やんちゃな子供たちからたくさん元気をもらいました。(泉苑 堀内賢治)

「やつと会えたね」今年はこの会話ができたことに感謝でした。(事務局 西郷加代子)

コロナウイルスに振りまわされ続けた1年でした。心身共に疲労困憊です。(泉苑 南佳代)

職員研修の録画動画の配信を実現しました。便利な技術を活用しつつ、人と人とのつながりを大切にした1年でした。(事務局 青木志乃)

チャレンジの1年でした。職場での新たな役割、資格取得など、良い経験になりました。(あさひ苑 櫻井拓磨)

腰痛に始まり腰痛に終わる1年です。マッサージ、ストレッチの成果か腰痛は治らないけれど体重が減りました。(編集長 上野廣美)